

## <熊本支部例会抄録>

日時：2026年4月14日（火）20：00～

会場：熊本県歯科医師会館 3F 研修室

－ 一般講演抄録 －

# インプラントと天然歯の経時的な変化の違いについての考察

三村彰吾 共愛歯科医院 〒861-2231 熊本県上益城郡益城町安永 722-4

## ■抄録

ブローネマルク博士によるオッセオインテグレーションの偶然の発見（1952年）から70年以上が経過し、デンタルインプラントは現在、歯科臨床において欠かすことのできない治療法の一つとして確立されている。

しかしながら、長期経過症例においては、インプラント補綴と天然歯とのコンタクトの離開や、前歯部におけるインプラント補綴と天然歯との間に審美的調和の乱れを生じる症例を経験することがある。近年、これらの現象に言及した報告も散見されるようになってきた。

そこで今回は、関連文献の整理とともに、当院で長期経過観察を行なった症例を提示し、インプラント補綴と天然歯の長期的関係について発表する。

提示症例は以下の5症例である。

上顎中切歯単独インプラント症例として、39歳女性（18年経過）、56歳男性（17年経過）。上顎側切歯単独インプラント症例として、52歳女性（16年経過）、18歳女性（15年経過）、70歳女性（13年経過）である。

これら長期経過症例の検討を通じて、天然歯との関係性の変化および審美的調和に影響を及ぼす要因について皆様と検討したい。